

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 248人

② 数学 247人

5 留意事項

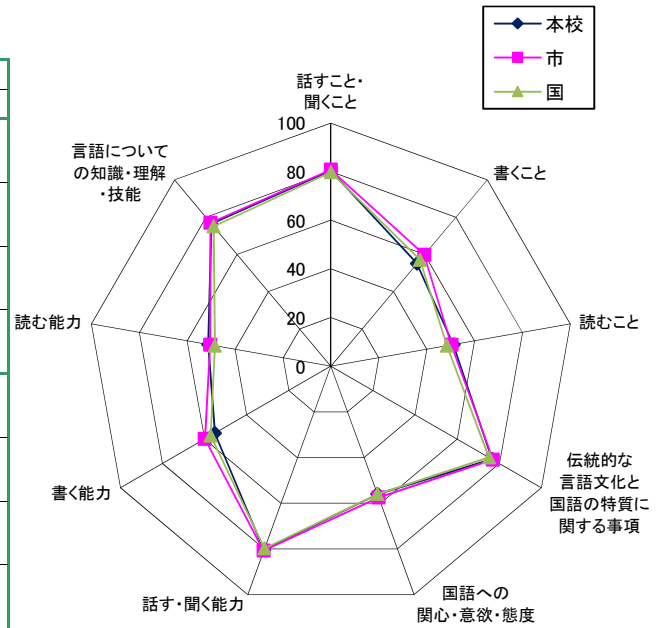
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 80.4 | 80.8 | 79.8 |
| | 書くこと | 55.1 | 59.8 | 57.1 |
| | 読むこと | 51.2 | 50.4 | 48.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 76.5 | 77.0 | 75.1 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 56.0 | 57.5 | 56.0 |
| | 話す・聞く能力 | 80.4 | 80.8 | 79.8 |
| | 書く能力 | 55.1 | 59.8 | 57.1 |
| | 読む能力 | 51.2 | 50.4 | 48.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 76.5 | 77.0 | 75.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

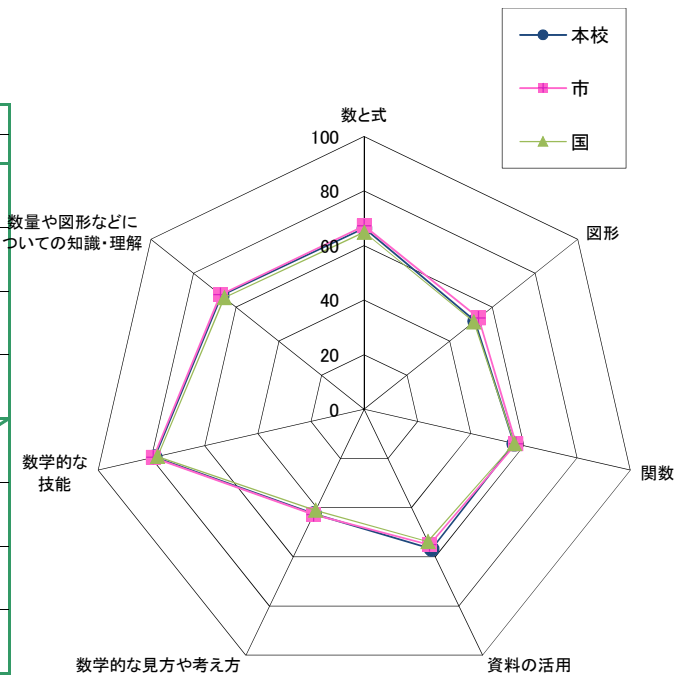
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|---|
| 話すこと・聞くこと | ○平均正答率は、県より0.9ポイント、全国より0.6ポイント上回った。特に、「話し合いの話題や方向を捉える」問題では正答率が全国より2.2ポイント上回るなど、理解度が高かった。 ●平均正答率は、市より0.4ポイント下回った。「話す内容を考える」という理由まで書く記述問題では、無回答率が3.2ポイントであった。 | ・選択式の問題では正答率が高いが、記述式になると正答率の低下や無回答率の上昇が見られることが課題である。「話すこと・聞くこと」自体の力は付いていると感じるため、記述式の問題への抵抗をなくせるよう、「書く」機会を増やす。 |
| 書くこと | ○平均正答率は、県や全国より下回っているものの、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」問題では全国を0.9ポイント上回った。 ●平均正答率は、市より4.7ポイント、県より2.9ポイント、全国より2ポイント下回った。記述問題での無回答率が10.1ポイントであった。 | ・「書くこと」に対しての苦手意識が強く、無回答率が高いことが課題である。そのため、「書く」機会を増やす。また、課題作文の授業で実際に自分の文章を推敲させることで、構成の工夫を考えられるように指導する。 |
| 読むこと | ○平均正答率は、市より0.8ポイント、県より3ポイント、全国より2.7ポイント上回った。特に、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」問題では正答率が県より5ポイント上回るなど、理解度が高かった。 ●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」という記述問題では、平均正答率は県や全国より上回っているものの、無回答率が27ポイントで、県や全国を上回った。 | ・文章の内容はよく読み取れているにも関わらず、自分の考えを記述することをためらう生徒が多いことが課題である。そのため、「書く」機会を増やす。また、自分の考えに具体的な理由を書くよう繰り返し指導する。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○平均正答率は、県より0.4ポイント、全国より1.4ポイント上回った。特に、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題では全国より7.3ポイント上回るなど、理解度が高かった。 ●平均正答率は市より0.5ポイント下回った。特に、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」という記述問題では正答率が県や全国より2ポイント以上、下回った。 | ・漢字や言葉の意味は理解しているものの、記述式の問題になると正答率が下がることが課題である。知識はあるので、文章にすると「書く」機会を増やす。また、手紙やメールの書き方を再度確認する。 |

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|-------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | 数と式 | 66.4 | 67.2 | 64.9 |
| | 図形 | 51.9 | 53.6 | 51.4 |
| | 関数 | 56.3 | 57.0 | 56.4 |
| | 資料の活用 | 56.8 | 55.1 | 53.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度 | | | |
| | 数学的な見方や考え方 | 42.5 | 42.8 | 41.1 |
| | 数学的な技能 | 78.8 | 79.3 | 77.7 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 66.9 | 67.4 | 65.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|--|
| 数と式 | <p>○目的に応じて式を変形させ、事柄が成り立つことを証明する問題は、県や全国の平均正答率を4ポイント以上上回っている。</p> <p>●整式の加法と減法の問題は、県や全国の平均正答率を下回っている。</p> | <p>・基本的な計算における技能が不十分である。ワークやタブレット(AIDリル等)を活用し、計算問題の練習を行う。</p> |
| 図形 | <p>○おうぎ形の中心角から弧の長さや円周の関係を考える問題は、県や全国の平均正答率を上回っている。</p> <p>●錯角が等しくなるための2直線の位置関係についての問題は、県や全国の平均正答率を下回っている。</p> | <p>・錯角が等しくなるための2直線の位置関係について十分に理解できていない。錯角・同位角が等しくなるときの2直線の位置関係について再度説明し確認する。</p> |
| 関数 | <p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題は、県や全国の平均正答率を、約3ポイント上回っている。表やグラフの読み取り方をよく理解している。</p> <p>●関数の意味についての問題は、県や全国の平均正答率を下回っている。</p> | <p>・「xが決まると、yがただ1つ決まるとき、yはxの関数である」ということが十分に理解できていない。関数の意味について繰り返し確認する。</p> |
| 資料の活用 | <p>○中央値を求める問題は、県や全国の平均正答率を、6ポイント以上上回っている。資料の活用に関する用語をよく理解している。</p> <p>●2つのデータの傾向を、度数折れ線の特徴を比較して説明する問題は、県や全国の平均正答率を下回っている。</p> | <p>・資料を分析し判断した根拠を説明する力が不十分である。度数折れ線をもとにデータの傾向を捉える方法について確認するとともに、説明する力を向上させるために、自分の考えを伝えたり、発表したりする機会を増やす。</p> |

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

主に基本的な生活習慣の充実、生活の態度について
 ○設問1「朝食を毎日食べていますか」、設問2「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」、設問3「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」等において、国や県の数値を大きく上回っている。
 ○善良で前向きな生活態度を問うた設問11「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」、などにおいて、国や県の数値を大きく上回っている。

主に学習に対する志向・関心について

○設問12「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、設問13「学校に行くのは楽しいと思いますか」なども、国や県の数値を大きく上回っている。素直な気持ちですくすくと成長している生徒が多いことがわかる。
 ○設問25「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は、国や県の数値を大きく上回っている。コロナ禍において、地域学校園の事業が大きく制約を受けている中ではあるが、宇都宮学の導入などで地域社会への興味・関心が高まっていることが考えられる。

主に教科の学習について

○各教科の学習に対する学習価値観は高い。また、学習内容を生活に生かしていこうとする意欲もそれぞれ高い。

- 設問22「あなたの家にはおおよそどれくらい本がありますか」について、国や県の数値と比べて低い数値が出ている。家庭の読書環境の充実については保護者会等で呼びかけたり、学校図書館の利用環境を整えたりしていきたい。
- 設問26、27では学校におけるコンピュータ(ICT機器)の活用を問うている。コロナ禍の影響として、パソコン室の活用が大きく制約を受けたため、本校の数値は低くなっている。しかし、本調査後に生徒一人に1台のタブレット環境が整備され、現在日常的に使用しているため、来年度からは大きく改善すると思われる。
- 数学科では、設問59「問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」の数値だけが低い。これは論理的な思考を書き留める機会が少ないためと考えられる。授業中におけるノート記入の指導を改善すべきである。
- 解答時間の不足を述べる生徒がやや多い。

宇都宮市立清原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| ・基礎的・基本的な知識・技能の定着。 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 | ・自主学習ノートによる家庭学習の充実 ・「今日のめあて」の提示の工夫 ・「振り返り」の効果的な実施 ・ICTを活用した個に応じた分かりやすい授業 | ・設問18、19「学校の授業時間以外にどれくらい勉強をしていますか」について、平日・休日双方で国や県の数値を上回っている。自主学習ノート一日1ページ以上を義務付け、担任が細やかに指導している結果が、家庭学習時間の確保の数字に表れている。 ・設問26、27「授業におけるコンピュータの利用」は、コロナ禍におけるパソコン室利用の制限により、数値が低い。しかし本調査後、全生徒にタブレットが配付され、日常的に使用しているため、次年度以降は上がると予想される。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|------------------|--|
| ・自分の思考や試行錯誤をノートに適切に記録したり、わかりやすい言葉で表現したりする活動に苦手感がある。 | ・思考力・判断力・表現力等の育成 | ・思考力・表現力等を育成するために、授業において自分の考えを書く活動を工夫して位置付ける。さらに、書く活動と「説明」「話し合い」などの活動を関連付け、判断力・表現力等を身に付けさせる。 |